

小國神社の建物

小國神社の境内には数々の建物があり、その中心は本殿です。小國神社の本殿は大国主命のご神体を安置し、参拝する場所です。大国主命は、農業の神、国づくりの神、そして神道の中心の神です。本殿は大社造で、その切妻屋根の両端は、二又状に渡された 2 本の棒でできた頂華で飾られています。これは神社建築の最古の建築方法であり、礼拝用の古代の宮殿に端を発すると考えられています。

大社造の屋根は、通常、樹皮で屋根を葺いてあります。小國神社の屋根は檜の樹皮で葺いてあります。檜は神社の周辺の森で育ちます。樹皮を木から注意深く剥がしたあと、乾かしてから、神社の屋根に積み重ねます。剥がしたあとの新しい樹皮も剥がすことができるので、大社造は本質的に持続可能な建築様式で 1,300 年以上前から用いられています。小國神社は 30～60 年ごとに建て替えられているので、その建築様式は何世代にもわたって確実に保存されています。